

令和8年度 難波中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

Ⅰ 全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT=Computer Based Testing）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率 (%)		平均無解答率 (%)		平均IRTスコア 英語4技能 () 内は3技能 (参考)
			国語	数学	国語	数学	
3 年	学校	91	57	50	3.4	11.0	485 (482)
	大阪市	-	60	55	5.4	11.4	499 (499)
4月23日	全国	-	63.9	57.0	4.9	10.4	499 (499)

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞ 全国と比較して、「書くこと」の内容において本校の平均正答率（63.7％）と6割近くとれており、大阪市平均（64.2％）と全国平均（67.4％）を上回ることができなかったが、他の内容の領域と比べ、特に大阪市との平均の差は比較的小さくおさまっている。しかし、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の内容において、全国平均（63.0％）と本校平均（53.8％）と大きく差があり、知識及び技能を活用する力が課題となっている。

＜数学＞ 全国と比較して、すべての内容において全国平均、大阪市平均を下回っているが、「関数」の内容において、平均正答率が50.2％と、大阪市平均（52.5％）との差は比較的小さくおさまっている。また、「数と式」の内容においての平均正答率が63.5％と、6割を超えている。しかし、「図形」の内容において、本校平均（35.7％）と4割を満たさない形で結果がでており、筋道を立てて考える力の育成が課題となっている。

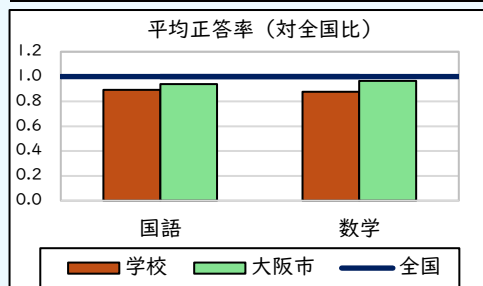
＜英語＞ 全国と比較して、IRTバンド4（上位レベル）の割合が本校は23.5％で、全国平均（23.9％）と大阪市平均（23.9％）とほぼ変わらない割合で、成果が見られる。しかし、IRTバンド1（最下位レベル）が9.4％で、IRTバンド5（最上位レベル）4.7％を大きく上回る状況もあり、学力層の底上げや、基礎的な学力の定着が課題となっている。

今後に向けて

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

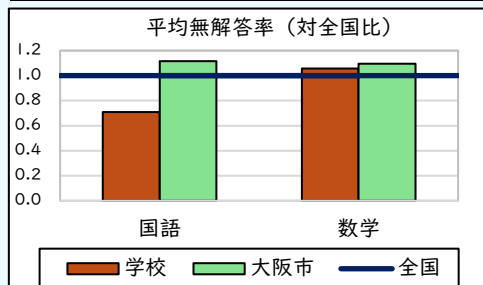
平均正答率（％）

	国語	数学
学校	57	50
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



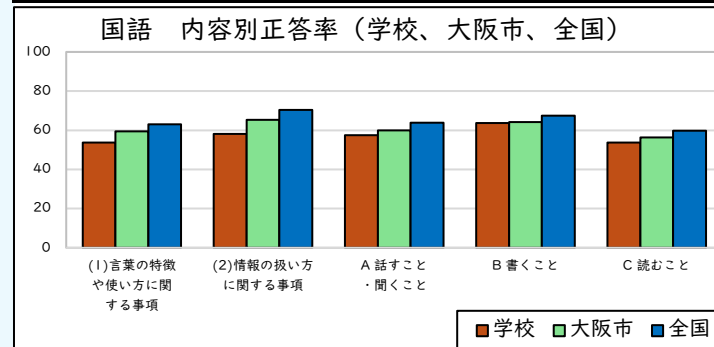
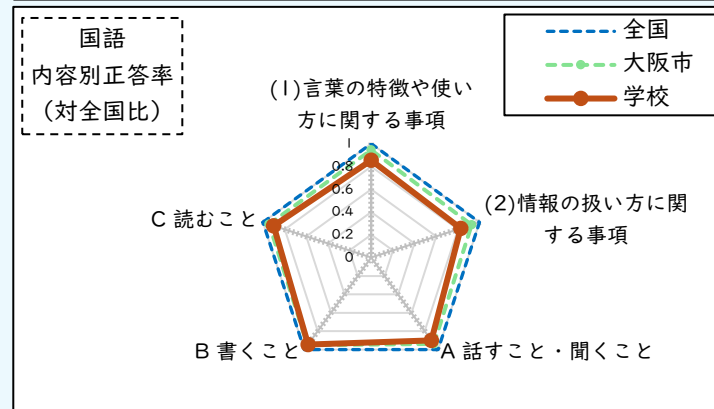
平均無解答率（％）

	国語	数学
学校	3.4	11.0
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



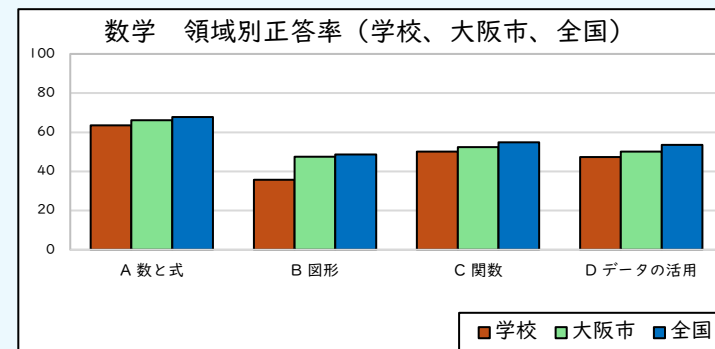
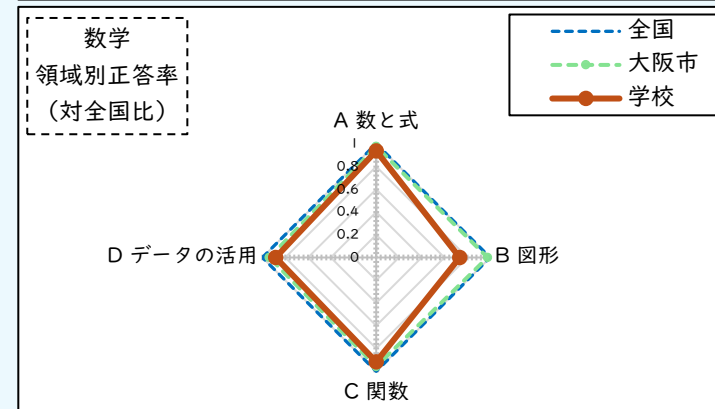
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	5	53.8	59.5	63.0
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	58.2	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	57.5	59.9	63.9
B 書くこと	3	63.7	64.2	67.4
C 読むこと	3	53.8	56.3	59.7



【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	63.5	66.1	67.8
B 図形	4	35.7	47.6	48.7
C 関数	3	50.2	52.5	54.8
D データの活用	4	47.3	50.2	53.5



令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（英語）

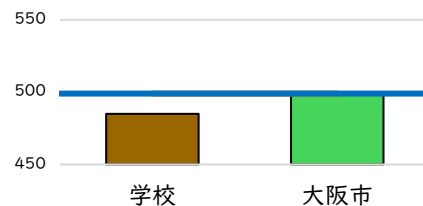
英語 平均IRTスコア

学校	485 (482)
大阪市	499 (499)
全国	499 (499)

※ 4技能の平均IRTスコアです

※ () 内は3技能の平均IRTスコアです

平均IRTスコア 英語 4技能



【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和8年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

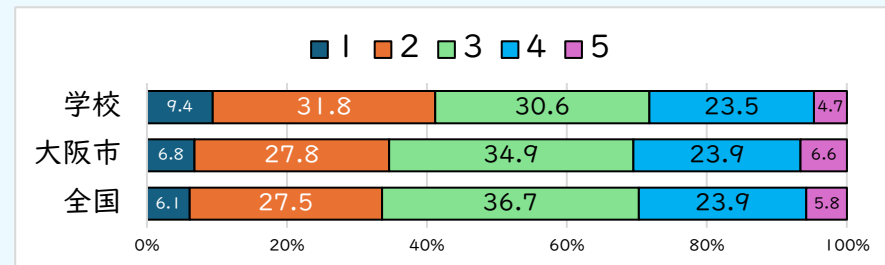
※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

IRTバンド分布比較（4技能）

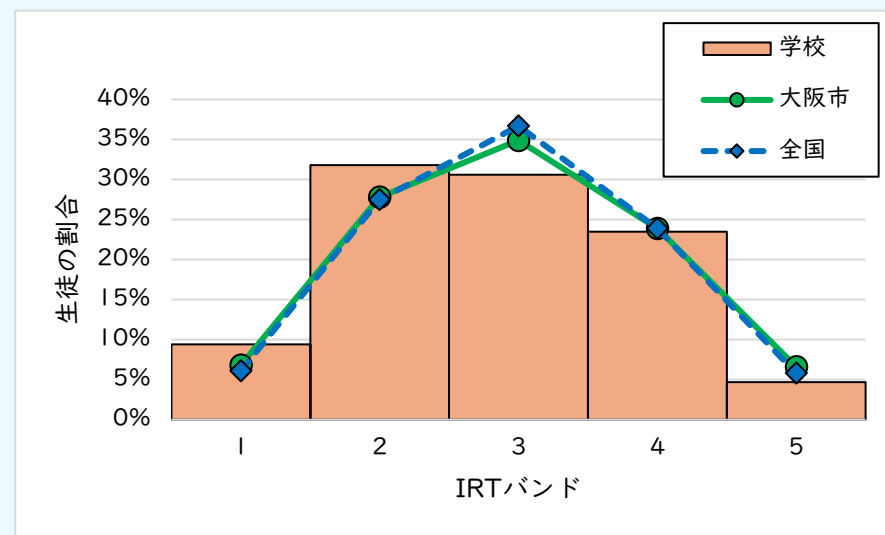
	1	2	3	4	5
学校	9.4	31.8	30.6	23.5	4.7
大阪市	6.8	27.8	34.9	23.9	6.6
全国	6.1	27.5	36.7	23.9	5.8

※ 4技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（4技能）



IRTバンド分布グラフ（4技能）



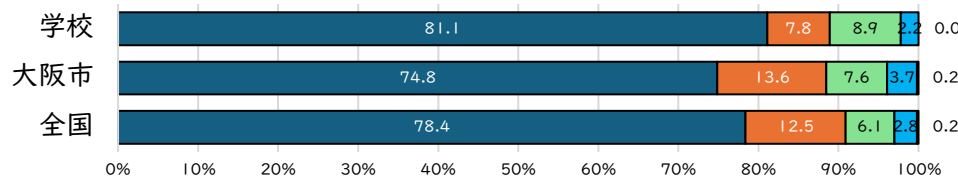
生徒質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

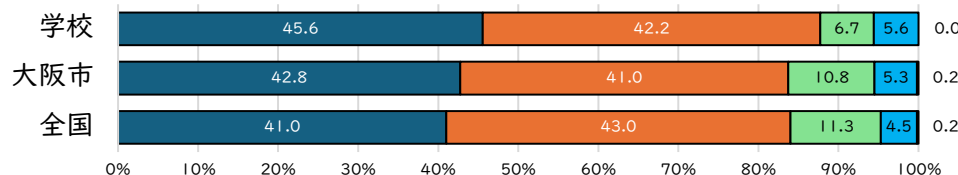
質問番号 質問事項

(1) 朝食を毎日食べていますか



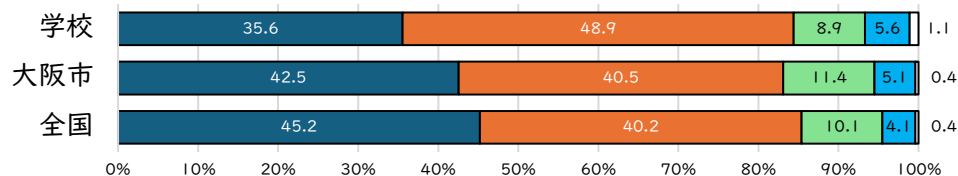
1 している
2 どちらかといえば、している
3 あまりしていない
4 全くしていない

(8) 自分には、よいところがあると思いますか



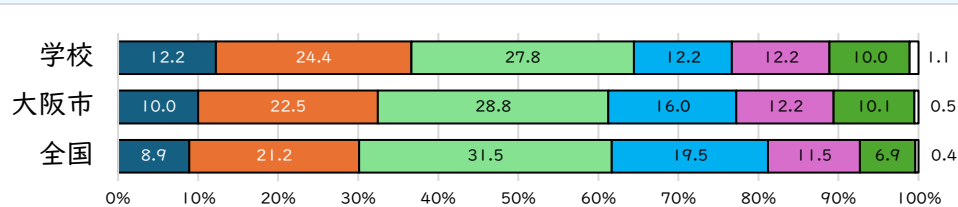
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(15) 学校に行くのは楽しいと思いますか



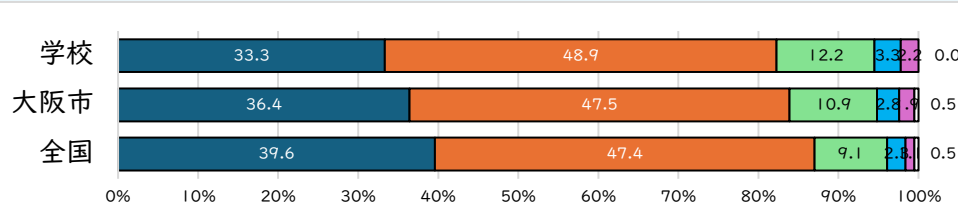
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(23) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



1 3時間以上
2 2時間以上、3時間より少ない
3 1時間以上、2時間より少ない
4 30分以上、1時間より少ない
5 30分より少ない
6 全くしない

(42) 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない
5 学級の生徒との間で話し合う活動を行って

学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

質問番号

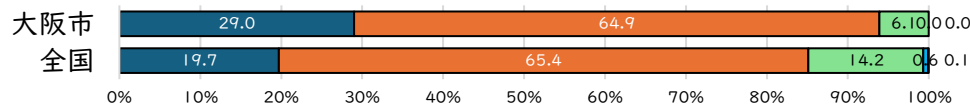
質問事項

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

(7)

調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか

【学校の回答】 1 そう思う

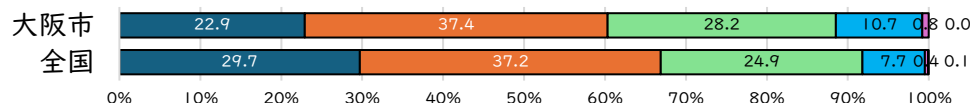


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

(38)

調査対象学年の生徒に対して、前年度に、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか

【学校の回答】 2 月数回程度行った

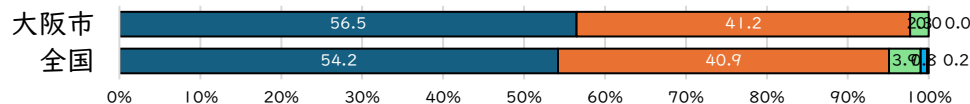


1 週1回程度、または、それ以上行った
2 月数回程度行った
3 学期に数回程度行った
4 年数回程度行った
5 行わなかった

(63)

英語担当教員とALT（外国語指導助手）との間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行うことができていると思いますか

【学校の回答】 1 そう思う

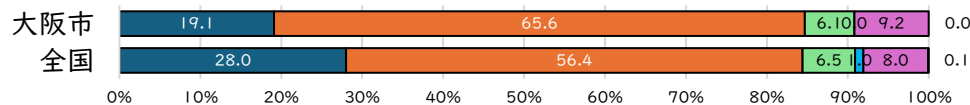


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

(87)

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか

【学校の回答】 1 そう思う

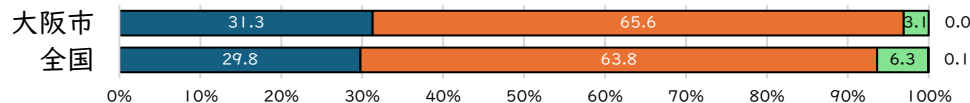


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない
5 取組を行わなかった

(92)

令和7年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

【学校の回答】 2 行った



1 よく行った
2 行った
3 ほとんど行わなかった